

なぜなに やまもり

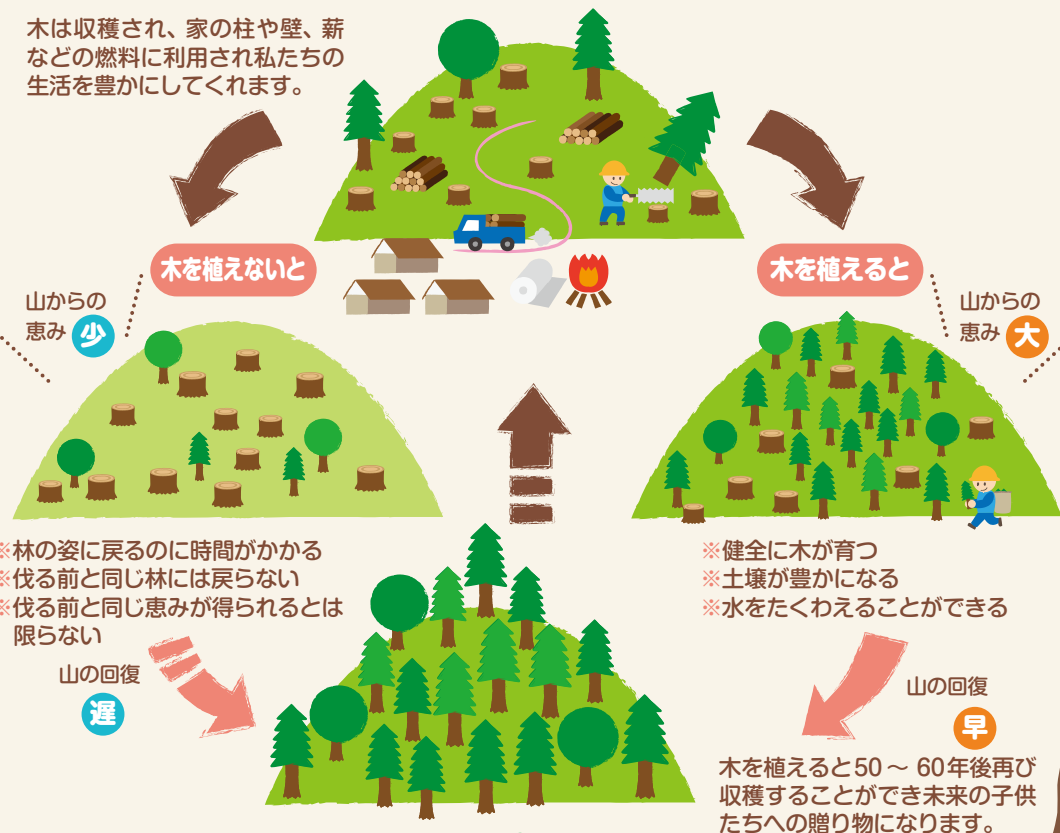
山や森についてもっと知ろう!

木はなぜ植える必要があるの?

木は、米や野菜と同じように収穫されて、家の柱や壁、薪などの燃料として利用され、私たちの生活を豊かにしてくれます。しかし、収穫後の山に木を植えないと、山は伐る前と同じ姿には戻りません。いずれ木は生えてきますが、長い時間がかかります。また、伐る前と同じ恵みが得られるとは限りません。

そのため、木を伐ったら木を植えて山を回復させる必要があります!

木は収穫され、家の柱や壁、薪などの燃料に利用され私たちの生活を豊かにしてくれます。



「木を植えて、育て、使って、また植える」この循環を守ることで、山は、私たちに多くの恵みを与えてくれます。

私たちの身近にある森林に、あらためて目を向けてみませんか。

※山形県では「やまがた緑環境税」を活用して、手入れの遅れた森林を整備しています。



えびはら ひろこ
蛸原 紘子 さん

熊本県出身。小国猟友会会員。
2005年4月、東北芸術工科大学芸術学部日本画コースに入学して山形県に。同大学院在学中に狩猟免許を取得し、2011年、猟友会会員に。大学院修了後、2012年4月、小国町役場に就職。

もりしあ人

— 森があるしあわせを伝えたい —

マタギです

小国町猟友会で猫をされている蛸原紘子さん。熊本県出身で、日本画を学ぶために山形県にいらした蛸原さんが、本来は女性禁煙であるマタギになって5年。全く分野の違う世界に飛び込んだ蛸原さんに、マタギの魅力などをお聞きしました。

— マタギって何ですか? —

東北地方を中心とした、山の神を信仰している狩猟者という感じでしょうか。狩猟のために山に入る時は山の神に山の無事を祈り、獲物を授かったときは感謝の儀礼を行います。

— どうしてマタギに? —

日本画が好きで日本画コースのある東北芸工大に入学するため熊本県から山形県に来ました。動物が好きで動物ばかり描いていました。自然のなかで生きる動物の姿を描きたいと思っていた時、たまに民俗学の講義を受けたんです。野生のクマやカモシカの話が出てくるのがすごく興味が湧きました。先生の研究室を訪ね、最初に連れて行ってもらったのが小国町の五味沢だったのです。クマ狩りをしているところについて行き



「子」蛸原さんの作品

ました。その時初めてマタギの人たちと会ったのですが、その当時の親方が「この山は自分たちが守っている」という話をされました。マタギの人たちは「先祖代々山を使ってきて、それを使い続けていけない」という考えを持ってはならない」という考えを持っているのです。山も生活の一部として守っていることにすごく感動しました。街中で育った私にとっては、その土地に根付いて住む、という感覚がなかったんですね。大学を卒業した後も、野生鳥獣と人間の係わりを勉強したくて大学院に進みました。大学院3年目で狩猟免許を取り、小国町猟友会に入っていたことができました。きっかけをくれた先生と五味沢の仲間には本当に感謝しています。修了後は小国町役場に就職し、小国町に住みマタギを続けています。

仲間との信頼感が魅力です

— 狩猟の魅力って何ですか? —
特にクマ狩りなんですけど、集団で行うので仲間との信頼感がなけ

れば成功しません。その結束力の強さ、仲間を大切にできる気持、その居心地の良さが魅力です。日常的に結束を感じることであまりないですよ。それと、素晴らしい自然との出会いはやみつきになります。

マタギは大事な文化

— 人と野生動物の共存のために

マタギは昔からずっとクマを獲り続けていますが、必要以上の頭数は獲りません。クマが増えすぎたら獲るし、少なすぎたらやめるということをやっています。クマが増えすぎるとクマが里に下りて来

てしまうので、マタギは春のうちに、山の奥にクマを追うようにしています。「こっちの方には人がいる」ということをクマに知らせる、「人が怖い」ということを教えておくのです。
現在マタギの数が減ってきています。こういう大事な文化を絶やさないよう、次の世代に引き継いでいきたいですね。



小国町猟友会の方々

